

僕は、3年生になった始めの頃から、「変わりたい。」「今年は今までの生活とは違う年にしよう。」とっていました。

「めんどい」、「つまらん」。これらの言葉は、僕の口癖でした。いろいろなことにやる気が出せず、中途半端だった2年生までの自分からすると、今こうしてここに立っていることは、とても考えられなかったことだと思います。今までの分を、すべて取り戻すなんてことは無理かもしれないけれど、少しでも取り戻せるように、がんばろうと決めました。

そこで、まずは、前向きな言葉を心がけました。「やってみたい。」とか、「楽しそう。」とか。すると、不思議と勉強や行事、どんなことにもやる気が出て、真面目に取り組めるようになりました。そして、クラスや学校のために、自分にもできることがあるのではないかと思えるようになりました。

そんな中、学級活動で、みんなが楽しみにしていた体育祭の応援団員を決める時間がありました。「応援団長、ぜひ、やってくれる人！」と先生が言ったとき、自然と手が拳がりました。選ばれたとき、「何でも真面目にがんばっていれば、こういうこともやらせてもらえるんだな。」と思い、うれしかったです。それと同時に、みんなに選んでもらったからこそ、がんばらないといけないな、と思いました。

夏休み。応援の準備を進めていこうと、集まりました。ところが、最初から壁にぶつかりました。去年までとは違い、運動場の真ん中で盛大にやることや、クラスのみならず、1, 2年生にも伝えていかなければならないというプレッシャーに押しつぶされそうになりました。2学期に入って、学級で練習をしたり、1, 2年生のところへ行って教えたりする時も上手に仕切れず、悩みました。途中で、投げ出したくなったこともありました。しかし、みんなが選んでくれたときのこと、がんばりたいと思えたことを思い出し、「全力でやっていこう」と改めて決めました。練習に身が入らない仲間がいても、最初は一部から始まったやる気が徐々に広がり、1, 2年生もまじえて、みんなが日に日に一つになっていくのを感じました。僕は、オレンジ組の3学年みんなと、外で集まって練習をしたときがとても楽しかったです。

「応援、優勝！」その言葉を聞いたとき、僕は自然と周りの人への感謝の気持ちが芽生えました。練習中に担任の先生が叱ってくれたとき、素直になれなかったこともありました。今思えば、その言葉のおかげで、ここまでできたのだと思いました。そして、何をすればよいのかわからなくなったときに、サポートしてくれたクラスのみみんなに本当に感謝しています。ついてきてくれた1, 2年生にも感謝しています。1, 2年生にとって、僕たちは、どんな先輩に映っていましたか。中学校最後の飯森祭、最高の思い出ができました。

また、僕は体育祭当日に、乙川中が一つになったと感じました。どのクラスも、どの学年も、お互いに応援したり、励ましあったりして、とても温かい良い雰囲気でした。このとき、乙中生としての誇りをもてた気がしました。

2学期を通して学んだこと。

- 前向きな発言を心がけると、やる気が出るということ。

- 自分一人ではできないことも、友達や先生、先輩、後輩、協力すればつくり上げられるということ。
- 最初は失敗したり、上手くいかなくても、信じてやり続けることが大切だということ。
- そして、僕たちの力で、乙川中をより良いものにしていけるということ。  
たくさんのことを学びました。

早いもので、あと3ヶ月で卒業です。僕は、このクラスならこの先どんなことがあっても、みんなで乗り越えていけると 생각합니다。良い仲間ができました。受験勉強も、精一杯頑張りながら、楽しく過ごしていきたいと思っています。